文教厚生委員会 会議録

日 時 令和2年11月13日（金）

午後1時30分開会，午後2時27分閉会

場 所 第1委員会室

1 開 会

2 委員長挨拶

3 協議事項

(1) 土浦市立認定こども園 土浦幼稚園の設置（案）について

①園舎の整備方法について

②改修整備事業等スケジュールについて

③その他

(2) その他

4 その他

5 閉 会

出席委員（7名）

委員長 塚原 圭二

副委員長 奥谷 崇

委 員 田子 優奈

委 員 目黒 英一

委 員 下村 壽郎

委 員 鈴木 一彦

委 員 福田 一夫

欠席委員（1名）

委 員 矢口 勝雄

説明のため出席した者（7名）

副市長 東郷 和男

保健福祉部長 塚本 哲生

こども福祉課長	菊田 宏巳
こども福祉課保育係長	小神野 昭博
こども福祉課保育係主任	大関 香代子
こども相談課長	中川 光美
健康増進課長	羽成 信明

事務局職員出席者

係 長 小野 聡

傍聴者（1名）

男0名 女1名

○塚原委員長 ただ今から文教厚生委員会を開催いたします。早速ですが、協議事項に入ります。土浦市立認定こども園土浦幼稚園の設置案についてになります。まずは1園舎の整備方法について執行部より説明をお願いします。

○菊田こども福祉課長 土浦市立認定こども園土浦幼稚園の設置案について説明させていただきます。9月議会の事前の文教厚生委員会におきまして、概要を説明させていただきましたが、その後、設計担当部門の設計により、施設整備費の概算金額や施工期間等が出てきましたので、ご説明いたします。まず、1番の設置の理由等です。9月議会の事前委員会でも触れさせていただきましたが、1番認定こども園土浦幼稚園についてですが、土浦市立幼稚園の再編計画では、土浦幼稚園は令和3年度末、令和4年3月末をもって終了となる予定ですが、この再編計画完了後に、土浦幼稚園の名称、歴史、文化を後世に残すため、土浦幼稚園を市立認定こども園土浦幼稚園、幼保連携型として継承するものです。認定こども園になることで、需要の高い保育園児を受け入れることとなり、幼稚園児も3歳児からの受入が可能となります。2番東崎保育所の民間活力導入についてですが、土浦市の公立保育所への民間活力導入につきまして簡単に触れさせていただきます、小泉内閣における聖域なき構造改革の一環として、地方にできることは地方に、民間にできることは民間にという政策の下、三位一体改革が掲げられ、公立保育所運営費の国県負担金の廃止、施設整備の国庫補助金の廃止がなされたことを受けて、市の財政の厳しさも踏まえ、平成26年度に学識経験者や私立保育所、幼稚園の代表者などで構成した土浦市公立保育所の運営のあり方検討委員会により、保育所運営の方策について調査研究を行いました。公立保育所の役割が検討され、また、公立保育所を運営していく上での課題解決には、様々な視点手段を持って柔軟に取り組んでいく必要があります。現在の公立保育所の運営について、指定管理者制度導入、公設民営化、私立事業者への移管等民間活力導入を様々な角度から検討し、円滑に導入するための保育運営等に関する事業計画の整理を今後進めることが必要と総括され、これを受けて、平成27年度に、その後10年間の民間活力導入実施計画を策定し、前半5年で6か所を対

象とし、後半5年で、前期計画の進捗状況・社会経済情勢や保育行政を取り巻く環境の変化等を踏まえて残り4か所の後期計画を策定することとしました。前期計画では6所中5所が民間へ移管又は移管が決定しております。前期計画で最後に残っていたのが東崎保育所ですが、この東崎保育所の民間活力導入につきましては、認定こども園の保育部分として、東崎保育所の保育機能を移転し、認定こども園に集約するものです。このため今年度予定していましたが、東崎保育所の民間活力導入事業については実施しないこととします。続きまして、2番目の設置の内容です。詳細は現在検討中です。場所は、現在の土浦幼稚園所在地です。規模は、100人程度、教育が40人、保育が60人程度と考えております。教育定員40人と保育定員60人とを、各年齢ごとのクラスに割り当てたものが、その下の教育定員、保育定員です。0歳児6人、1歳児8人、2歳児10人、3歳児から5歳児は教育保育合わせておおむね25人程度です。園舎については、現在園舎の改修を行いたいと考えております。この施設整備につきまして、2ページをお願いします。概算事業費用の比較です。現在と同じ程度の園舎を新築する場合の費用は、概算で6億2,700万円です。内訳は、基本実施設計費3,700万円、既存園舎解体費用6,800万円、新築費用5億1,200万円、工事監理業務900万円です。工期は、解体に5か月程度、新築に12か月程度、合わせて17か月程度です。これに対して、改修する場合の費用は、4億1,100万円です。内訳は、実施設計1,400万円、改修費用3億8,000万円、工事監理業務1,200万円です。工期は、8か月から10か月程度です。改修の場合の内容ですが、資料右側の土浦幼稚園改修工事について案をご覧ください。現在園舎の建築年月は、昭和49年3月で、築46年です。構造は鉄筋コンクリート造り2階建て、延べ床面積616㎡、建築面積1,125㎡です。耐震判断は、平成21年に行い、旧耐震基準でIs値0.72で、文部科学省基準の0.7を上回っており、基準を満たしております。また、平成23年度には、内装の改修工事を行っております。今回の改修工事は、幼稚園から認定こども園への用途変更のためのリノベーションであり、フルスペックの改修で考えております。柱、耐震壁は残し、内装外装は全部やり直すものです。新治義務教育学校の改修工事とおおむね同様の方法です。改修概要ですが、外部改修では、屋上防水、外壁、建具等を全面改修します。これで、建築物を長寿命化します。内部改修では、床、天井、壁、建具、トイレを全面改修します。また、0歳児の部屋を作ります。調乳や沐浴、幼児用トイレを設置し、間仕切壁を作ります。調理室を新設します。厨房設備を含みます。保育施設では、調理室が必置です。昇降機設備を設置します。給食を運搬するダムウェーター兼用です。人も載せられ、お昼寝用の布団も上げ下げできます。機械設備、給排水衛生、空調、換気等水回りとエアコン配管を取り替えます。これは、下のこめ印にありますように、配管をすべて取り替えます。耐用年数は25年ですが、築46年経過し一度も取り替えていないので、機械設備改修は優先的です。大規模改修のタイミングを逃しますと、後で機械設備改修を行う場合には、内装改修を伴うことになり、改修効率が悪くなるためです。3ページをお願いします。利用平面図案です。1階と2階と、教室等の大きさは同じような造りです。各教室とも71.25㎡と、小学校の教室と同じくらいの広さで、大分広いです。1

階には、右側に調理室を配置します。その隣の部屋は、子育て支援センター用の部屋です。この部屋の一部に、エレベーターを設置します。その隣が職員室です。左側の奥の部屋が、一時保育用です。手前が0歳、1歳児の保育室です。そして、2階ですが、それぞれ2歳児、3歳児、4歳児、5歳児の保育室を配置します。では、2ページ左側の金額にお戻りください。新築工事で6億円、改修工事で4億円ですが、その財源内訳の見込についてです。新築の場合は、文部科学省の補助金がなく、市債が、公共施設等適正管理推進事業債というものがあり、施設を統合する場合90パーセントの借入と、借入分の50パーセントについて地方交付税が充当されるというもので、市債5億6,000万円、事業開始時の一般財源6,200万円です。市債のうち交付税50パーセント市負担50パーセントとみて、市負担の6,200万円と合わせ、事業全体に係る市負担は3億4,000万円と見込んでます。改修の場合は、文部科学省の補助金があり、約8,000万円を見込んでおります。残りの費用について、市債が90パーセント分借入50パーセント分地方交付税充当として、市債を約3億円、事業開始時の一般財源は3,300万円、事業全体に係る一般財源として、市債の50パーセント分と3,300万円とを合わせて1億8,000万円と見込んでおります。なお、文部科学省補助金、市債ともに、令和2年度現在での事業メニューにあるもので試算しております。説明は以上です。

○塚原委員長 ありがとうございます。質問はありますか。

○田子委員 3ページの利用平面図なんですけど、3歳以上の子どもたちに対してもお昼寝を想定してのことなのかということをお伺いします。

○菊田こども福祉課長 2階の右側に遊戯室というのがございまして、そこを想定しております。

○田子委員 そうしますと幼稚園の教育で入られているお子さんが帰ったあとに、保育で入られているお子さんがここにまとまってお昼寝をするというイメージでよろしいでしょうか。

○菊田こども福祉課長 おっしゃるように午前中は教育部と保育部協同の教育というのがございまして、給食を食べて、幼稚園の方は午後から帰って、保育部分はお昼寝をしてということでございます。

○目黒委員 3ページの平面図で遊戯室が広がっているのですが、1階と同じように区切るのでしょうか。

○菊田こども福祉課長 申し訳ございません。記載に誤りがあり71.25㎡ではなく、112.5㎡でございます。

○目黒委員 1階の資料室の脇はどういったスペースになるのでしょうか。

○菊田こども福祉課長 給湯だとか職員の休憩スペースでございます。

○下村委員 私からは最初に戻りますが、設置案について園舎の改修スケジュールについてということで説明があったんですけど、執行部からやりますよと来ているんですよ。前回の委員会では、やるまでの話して、子ども子育て会議でも話したしほかでもやって、結果こうやってやっていくんですよという話が先じゃないのかな。

○塚原委員長 今の下村委員からの話ですと、これはやりますよと、実行しますよという話の中で、計画が先にあって実行ではないかということでしょうか。

○下村委員 はい。

○塚本保健福祉部長 計画の部分も当然必要なんですけど、これをやる場合の全体像をまずお話をした上で計画に戻っていただくというイメージで考えておりました。

○下村委員 いわゆる民間活力導入で来たんだけど、市長が民間活力導入と規定しているわけではなくて、この保育所に関してと幼稚園に関してこういうふうにしていきたいんだよというのは所信表明と同じようにやったんだけど、じゃあ具体的にやるというときには、市全体で地域全体でどういうふうにしていくという話し。これ単純に1つだけここだけの話をしているけど、例えば土浦幼稚園と東崎保育所の話をしているけど、そうじゃないんじゃないかというところを私前回お話ししたんです。その話がどうなっているのかなって。

○塚本保健福祉部長 この間この認定こども園土浦幼稚園について概要の部分をお話しさせていただきました。詳細についてはこの臨時の委員会の中でお話をするとなっていましたので、その全体の話しもこれからスケジュールの中で考えています。次に文教厚生委員会が26日に予定されていますので、来週の17日にあります民間活力導入の委員会の会議を受けて、委員会のほうで説明をする予定となっておりますので、とりあえず文教厚生委員会の委員会の中でご協議いただきたいと思っておりますので、先日の文教厚生委員会において土浦幼稚園の概要をお話ししましたので、今日はその詳細をご協議いたしたいと。あとその他の時間がありますからそのとき委員さんからお話をいただければと。

○下村委員 ありがとうございます。概算事業費ですけど新築と改修費用の比較をしているんですけど、例えば耐震判定基準が平成21年に耐震判定基準をしているんですけど、旧判定基準が文部科学省の基準で0.7以上、実際に判定したら0.72でしたよとでしておりますけど、平成21年から今までだと10年くらい経過しちゃっているし、これ残すのか残さないのかという問題なんですけど。できれば財源見込みのことを考えれば当然改修がよいのしょうけど、築46年経った年は平成21年ですよ。フルスペックの改修ですと、柱、梁、屋根くらいしか残さないと思うので、見た目は良くなると思うんですか、肝心要の柱や梁などは相当傷んでいると思うんです。その辺を単純に平成21年の旧耐震基準によって0.72持っているんだから良いんだと言い切れるかというのが問題のような気がするんです。できれば新しいほうがいいんじゃないですかといたいわけ。やるなら。私は個人的にそう思います。あとは給排水衛生設備を残すのであればということで、全て交換するという事だけ機械設備はそんな簡単に残せるのかと思うんですよね。こういう案を作られているんだけど、両方費用の比較だから仕方がないのしょうけど、実際に追加追加となっていくってしょうがないし、これ概算で出しているけど実際にやってみたらもっとと高くなるだとか。高い設定をしておいて安くなるというわけではないので。そういうことも考えられるかなと感じておりますので、私としてはこういう企画をしているんだけどできるなら新築しちゃった方が良

いかなと思います。今の柱とか構造を残してやるとプランが限定されてしまうわけですよ。一番最初に思うのは限定されるよりもっと斬新で、コストパフォーマンスから行けばもっと安くなる可能性もあるし。残すより。だからもう少し考え直しても良いのかなと感じておりますがいかがでしょうか。

○菊田こども福祉課長 長寿命化をした公共施設を使うというのが民間と違うところで、民間であれば建て替えだと思んですけど、公共施設なので長寿命化をして使いたいというものです。あと、機械設備関係が改修費用の中でも大きくお金がかかるところでございます。1億5,000万から2億くらいが機械設備の総取り替えにかかる費用となっております。また財源がこのコロナ禍の状況も考えまして金額が少なくて済む改修工事を考えているものでございます。

○下村委員 財源のほうは当然厳しい中でどちらをやっても厳しいんですよ。元々民間活力導入でやるとこれは民間のほうに移行する訳だったんだから、残そうとすれば何かの形でお金がかかるんだと。維持するだけでも5,000万くらいかかってくるんだからそれはしょうがないと思んですけど。要するに一番最初の1ページのところで前に私が言ったように設置の理由というところの土浦幼稚園の名称、歴史、文化を後世に残すためって。これで再編計画をするのかということになっちゃうんですよ。それじゃないんですよ。土浦市の子どものために、その地区の子どもたちのために何かをやりたいという話なんです。名称とか歴史とか文化は残しておけばいいんで。そうじゃないんですよ。子どもたちのために立派な教育をしていくのであれば、立派なものを作って民間と競合するくらいのことやっつけていかないと、定員100名でやっつけてまたこなかったらお金をかけたって意味はない。それを含めてお考えいただきたい。

○塚原委員長 1つだけ。これ耐震は耐震診断はいつやったんですか。

○菊田こども福祉課長 平成21年の時に行っています。

○塚原委員長 仮にこれで設計をするときに、現在と比較してどうなのかをやってもらった方が良いのかなと。10年前だと劣化もしますしね。今回やるときにその辺も見てもらった方が良いんじゃないかと。

○下村委員 耐用年数って50年でしょ。評価のほうでね。今後これからも残すという。いくらリノベーションするからといって。新耐震に合うんだということでやっているんだけど。当時49年の頃に作ったものと現在は全然違いますんで、構造的にはちょっと怖い気がしますよ。そういったことも含めて設計屋さん聞いた方が良いでしょう。

○塚原委員長 その辺が検討していただきたいということで。よろしいですか。次にいってしまってもよろしいですか。

(「はい」との声あり)

○塚原委員 では2番の今後のスケジュールについてお願いします。では続いて、改修整備事業等スケジュールについて執行部より説明をお願いします。

○菊田こども福祉課長 4ページをお願いいたします。土浦市立認定こども園土浦幼稚園の設置についてのスケジュール案について説明させていただきます。令和2年度には、事業内容の検討を行っております。1番11月には、臨時文教厚生委員会で事業の方向

性を説明し、また11月26日の委員会時にも説明させていただきたいと考えております。2番12月には12月議会の全員協議会で事業の方向性を説明、3番12月以降、議会終了後に東崎保育所保護者説明会を行いたいと考えております。令和3年4月には、文部科学省補助金について、建築計画を提出。令和3年度中に、改修工事に係る実施設計を行う予定です。令和4年3月には、土浦幼稚園の運営が終了予定です。令和4年5月には、文部科学省補助金について、補助申請を行い、令和4年7月には、改修工事の入札を行い、令和4年9月に、議会での議決後に、本契約となり、園舎の改修工事を開始します。ここから10か月の工期なので、翌年度にまたがる2か年事業となります。令和5年度中には、園舎の改修工事が完了し、最短の場合で、令和5年度中に認定こども園を開園という運びで考えております。なお、開園時には、東崎保育所の保育機能を移転します。5ページをお願いします。スケジュールを簡単に図であらわしたものです。令和3年4月に国補助金について建築計画を提出し、令和4年5月補助申請し、6月に内定通知、7月に交付決定という流れです。建築計画提出後、国では予算取りを行い、翌年に申請を受け付けることとなります。市では、令和3年中に実施設計を行い、令和4年に補助金の交付決定を受けてから入札を行い、議会での議決を得て本契約となり、それから工事を行い、工事の期間は約10か月であり、完了後に最短の場合で、令和5年10月開園というスケジュールでございます。説明は以上です。

○塚原委員長 ありがとうございます。質問はありますか。

○福田委員 駅前分園は東崎保育所がなくなってからどういう位置づけになったのでしょうか。

○菊田こども福祉課長 認定こども園の分園という位置づけで考えてございます。

○福田委員 現在の駅前分園の収容人数は。

○菊田こども福祉課長 今現在は定員10名のところ7名でございます。

○田子委員 認定こども園が開くまで東崎保育所は開園し続けるということでしょうか。

○菊田こども福祉課長 東崎保育所は現在のところで続け、認定こども園ができましたら引っ越しということで考えております。

○塚原委員長 他にございますか。

(「なし」の声あり)

○塚原委員長 以上で資料の説明は終わりました。その他執行部から何かありますか。

○羽成健康増進課長 本日お配りいたしました霞ヶ浦医療センターの資料をお願いします。霞ヶ浦医療センターから文教厚生委員会の委員の皆さまに現況を見ていただきたいと病院長より依頼があり、日時は11月26日木曜日午後2時30分に霞ヶ浦医療センターとなりますので皆さまのご出席の程よろしくお願いたします。

○塚原委員長 この日は委員会が10時からありますので、終わってからお昼以降になりますがよろしくお願いたします。その他ありますか。

○下村委員 先ほど言いましたけど土浦幼稚園の名称、歴史、文化を後世に残すためっていつてこのことについて認定こども園にするんだよという言い回し、ここに書いてあ

りますけど、実際は子どもたちのためにあるのですよね。それともう一つはこういうふうに書かれてしまうと、今回はこの土浦市立認定こども園土浦幼稚園と書いてあるからだけでも、本来は土浦市全体のことを考えて、次にたまたま土浦幼稚園になるんですよということなのか教えてください。

○**菊田こども福祉課長** 現在のところ認定こども園に関してはこの土浦幼稚園だけでございます。あと保育所に関しまして、現在民間活力導入後期計画を本年度策定することとなっております。この中で残りの公立保育所をどうするのかを検討してまいります。それでこの認定こども園と公立保育所を考え合わせてやりたいと考えております。

○**塚本保健福祉部長** 今菊田課長からありました民間活力導入計画について来週17日にその後期計画があります。今後、保育所が4所ありますが、それについては17日の日に委員会の方々でご協議いただいた内容を踏まえて26日には事前委員会がございますから、そこでお話をさせていただきたいと思っております。認定こども園については正直私も内部で話している段階では各所には必要ないかなというような内部の話しを受けてまして、残りの4所については残すにしても保育所という形。あとは下村委員からありましたような歴史があるからという部分は、個別に委員さんにお話ししたときにも、何らかの形でという話を承っておりますので、そういう部分を含めて保育所にこういうのをプラスした教育の認定こども園を取ることにしましたけども、だからといって力を入れないというわけではありませんので。子どもたちのためを考えてやるのは当然ですから。そういうことです。

○**下村委員** ありがとうございます。その辺のお話を伺いたかったのと、前期計画、後期計画とっているけれど、後期計画で検討したいという話でしたが、東崎保育所と土浦幼稚園だけがその民間活力から外してしまったわけだから、計画途中でこれだけを抜いてやっていくわけだから、全体をちゃんと作ったら良いのかという話なのよ。市、執行部のほうで。だって市長がやりたいと公約でもやったんだから。でこれが開始されているわけだから。民間活力導入というよりも市で保有している保育所のあり方というのを再検討してちゃんとやるべきじゃないのかなと思うんですよ。

○**東郷副市長** 今下村委員がおっしゃったとおりでございます。前期で6所を民営化しようかと決まってきました。今回の5所に関しては民間に移管しまして、1所が残っていたと。東崎保育所も民営化すると進めておりましたけど、市長も変わって考え方も変わってきたということもあると。一方で保育所のあり方もここにもありますように、これまでいろいろ調査をやった中でいろんな意見が出てます。公立の保育所もセイフティネットとしてきちんと残すべきではないかという意見もございますので、土浦市の子育て環境を良くするために何が良いかというのをしっかり考えながら、今回東崎を含めて残り4所ですか。ですから5所に関して民間活力導入計画策定委員会の中でもご議論させていただいた上で最終的には判断していきたいと思っております。ただ当然幼稚園と東崎保育所はある意味平行で進んでいますので、委員会の中でもそういった状況をご理解いただきながら、残りについて土浦市としてどうすべきか17日の委員会を踏まえて26日に相談させていただきたいと思っております。

○**下村委員** 副市長ありがとうございます。まさにそのとおりだと考えます。将来の土浦市の保育所のあり方というのは考えなければならないことで、民間活力の途中で今回やるわけだから全体を先に考えてくれないとちょっとおかしくなっちゃうんじゃないかなと考えますのでよろしく願いいたします。

○**鈴木委員** 民間活力後期計画の委員はこの文教厚生委員会からでているんですけど。前期計画の時は私が委員としてでていたんですけど、民活に反対していました。一般質問でもそういう意思を表明していたんだけど、民間活力が導入されて、民間活力導入前期計画が終わって報告に入ったと。ただその間に選挙があって市長が変わったと。ある意味公約が選択されたわけですね。新しい市長の公約が支持されたという形の中での後期計画策定に入るわけですが、今この委員会の中で全員の意見は別にしても、下村委員から意見があったということは、これから代表で出てくる塚原委員長はその説明を表明していただいて、その中での議論をお願いしたい。

○**塚原委員長** 分かりました。せっかくの機会ですでお話をさせていただきたいと思いますし、元々27年の前期の時から全部民営化して良いのかとそういう意見も委員会であったわけで、最終的には前期が終わったあと後期では考慮してくださいと。市長が変わったということでがらっと変わった訳ですけど、委員会の思いとしてはある程度熟慮していただける機会ができたということは非常に良いことだと思います。是非その委員会では私の方からお話をさせていただきます。その他ありますか。

(「なし」の声あり)

○**塚原委員長** ありがとうございます。以上で文教厚生委員会を閉会します。皆さん長時間にわたりご苦労さまでした。